

令和 3年 3月

山本陽子 学位論文審査要旨

主 査 南 前 恵 子
副主査 萩 野 浩
同 深 田 美 香

主論文

Factors affecting clinical nursing competency: a cross sectional study

(臨床看護能力に影響する要因：横断的研究)

(著者：山本陽子、奥田玲子、深田美香)

令和 3年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. 看護学生のコミュニケーションスキルの特徴

—ENDCOREモデル、プロセスレコードの振り返りによる分析—

(著者：山本陽子、青戸春香、奥田玲子、深田美香)

令和元年 米子医学雑誌 70巻 1頁～12頁

学 位 論 文 要 旨

Factors affecting clinical nursing competency: a cross sectional study

(臨床看護能力に影響する要因：横断的研究)

日本の保健医療を取り巻く環境は、世界一の少子高齢化の急速な到来・進展、医療技術の進歩、疾病構造の変化、国民の権利意識の高揚など劇的に変化している。それに伴い、医療機関には看護の質を保証し、高度な看護を提供するための卒後教育体制の強化が求められている。看護実践能力は、看護専門職としての感情、思考、判断を伴った統合的な行動であり、看護専門職としてのキャリア発達、アイデンティティ発達にも影響を与えるとされている。しかしながら、看護実践能力の影響要因を職場環境などの観点から探索し、基礎教育と継続教育の連携した教育的支援について論じた報告は少なく、十分な検討がなされていない。

本研究の目的は、看護実践能力の獲得に影響する要因を明らかにすることである。

方 法

看護師717名を対象に、無記名自記式質問票による調査を行った。基本属性として年齢、性別、専門学歴、通算経験年数、施設経験年数、転職経験、取得している資格などを調査した。また、職場環境への認識として7項目（上司や先輩からの支援がある、人間関係が良好である、職場には明確なビジョンがある、人事評価・処遇に対する公平性・客観性がある、必要な知識や技術のための十分な教育・研修がある、育児・介護休暇取得に対する支援制度が整備され利用しやすい、休暇が取得しやすい）を、4件法（4：そう思う～1：そう思わない）で尋ねた。看護実践能力は看護実践能力自己評価尺度 Clinical nursing competence self-assessment scale (CNCSS) を用いた。看護実践能力に影響する要因を検討するために、CNCSSを目的変数として単回帰分析を行い、関係性が明らかとなった項目を説明変数として重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。

結 果

看護実践能力に影響する要因を検討した結果、職場に明確なビジョンがあること、休暇が取得しやすいことが、CNCSSの4概念に関する「看護の基本に関する実践能力」「健康レベルに対応した援助の展開能力」「ケアの環境とチーム体制の調整能力」「看護実践の中で研鑽する能力」の向上に影響することが示された。また、年齢と職場の人間関係が良好

であることが「看護の基本に関する実践能力」、通算経験年数と取得資格を活用していることが「健康レベルに対応した援助の展開能力」「ケアの環境とチーム体制の調整能力」「看護実践の中で研鑽する能力」の向上に影響していた。

考 察

職場のビジョンが明確で、休暇が取得しやすく、人間関係が良好な職場環境は、労働環境として満足度が高く、看護実践能力の獲得に繋がっていることが示唆された。また、臨床経験を積み重ね、取得した資格を活用している看護師は、専門的な知識や技術を看護実践と結びつけ、自らの成長を実感しながら自己研鑽を重ねていることが推察された。看護師として単に経験を重ねるだけでなく、経験をどのように意味づけ、次の看護実践へ繋げていくのが看護実践能力向上の鍵となると考えられた。看護実践能力を獲得し向上させていくためには、基礎教育では看護経験を振り返る基礎的な思考力を養い、継続教育では実践知を見出すためにリフレクション能力を養いながら、主体的に成長し続けられる看護師を育成していくことが必要である。

結 論

職場環境として職場に明確なビジョンがある、休暇が取得しやすい、人間関係が良好であること、看護師として経験を積み重ね、取得した資格を活用していることが、看護実践能力の獲得に寄与することが明らかとなった。本研究により、看護実践能力の向上を促進するためには、職場満足を高めるための環境調整や取得資格を活用できるためのサポート、看護実践での経験を意味づける能力を育成していく必要性が示唆された。